

SHOW HEY シネマルーム

★★★★

パヴァロッチィ 太陽のテノール

2019年 / イギリス・アメリカ映画
配給：ギャガ / 115分

2020 (令和2) 年9月6日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

Data

監督：ロン・ハワード

出演：ルチアーノ・パヴァロッチィ
／ボノ／ブラシド・ドミンゴ
／ホセ・カレーラス／アンド
レア・グリミネリ／アンジ
エラ・ゲオルギュー／キャロ
ル・ヴァネス／ヴィットリ
オ・グリゴロ／マデリン・
レニー／ズービン・メータ／
アンヌ・ミジェット／ハーバ
ート・プレスリン／ユージ
ン・コーン他

👁️👁️ みどころ

2020年9月14日に、菅義偉官房長官が第26代自民党総裁に選出されたのは筋書き通りの出来レースだったが、2001年4月の小泉純一郎総裁の登場（選出）はハプニングの連続だった。しかし、日本の総理には珍しく、オペラ好きを公言した彼のおかげで、世紀のオペラ歌手パヴァロッチィや、歌劇『トゥーランドット』の『誰も寝てはならぬ』が日本でも有名に！そんなパヴァロッチィのドキュメンタリー。そう聞いて「これはパス！」と思ったが、こりゃ面白い！

いつも太陽のように輝いているこの大男を見ていると、「性善説」を信じてしまう。とりわけ、チャリティーでのダイアナ妃との交流や、U2のボノをはじめとするロック界との共演を見ていると、その感が強い。愛する妻と3人の娘との家庭生活を見ているとそうだったが、いやいや、実は・・・？

まあ、パヴァロッチィも所詮は一匹の男。60代半ばに再婚し、子供まで設けたのは立派だが・・・。

—*—*—*—*—*—*—*—*—*—*—*—*

■□■ ドラマでもドキュメンタリーでも、音楽映画が花盛り！ ■□■

昔から、世界的に有名な歌手や音楽家をテーマにした映画は多い。盲目の黒人歌手レイ・チャールズを主人公にした『Ray/レイ』(04年)は、その中でも最高傑作だった(『シネマ7』149頁)。他方、近時はドラマ仕立てではなく、音楽家を主人公にしたドキュメンタリー映画の傑作も多いから、ドラマでもドキュメンタリーでも、映画音楽が花盛りだ。

本作はそんなドキュメンタリー映画音楽のひとつだが、本作がすごいのは、第1に、アルバム売上総数1億枚、観客動員数1千万人超えという驚異の記録を残し、2007年に亡くなってからも、世界中から愛され続けている天才テノールにして、エンターテインメ

ント界のスーパースター、ルチアーノ・パヴァロッチィのドキュメンタリー映画であること。第2に、『アポロ13』（95年）、アカデミー賞監督賞に輝いた『ビューティフル・マインド』（01年）、『フロスト×ニクソン』（08年）、『ラッシュ/プライドと友情』（13年）で実在の人物を描いた巨匠ロン・ハワード監督の3本目の音楽家ドキュメンタリー映画であること。そして、第3に3度もアカデミー賞に輝いた録音技師クリストファー・ジェンキンズが、パヴァロッチィの「ハイC」と呼ばれる高音を軽々かつ優美に空へと放つ並外れた音域と、力強く芳醇な声量による「人類史上最高の歌声」を、伝説のアビー・ロード・スタジオでドルビーアトモスの最新技術を駆使してオーケストラと再録音し、魔法のように蘇らせたことだ。

ドキュメンタリー映画はちょっと……。そう尻込みしていた私だが、キネ旬9月下旬号「REVIEW 日本映画&外国映画」で、3人の評論家が揃って星4つという高評価をしている「後押し」を得て、劇場に行くことに。

■瞬間にオペラ歌手の頂点に！■

パン職人にして、アマチュアのテノール歌手だった父親と共に、小学校の教師をしながら音楽活動に従事していた若き日のパヴァロッチィは、母親の「あなたの歌は心に響く」の声に押されて、1961年に歌手デビュー。以降、持ち前の「性善説」思考(?)と、陽気で誰からも愛される性格、そして人並外れた「ハイC」と呼ばれる高音の魅力によって、オペラ歌手として順風満帆の歩みを続けることに。

私生活でも、妻と3人の娘に恵まれたパヴァロッチィは、血の滲むような努力と研鑽を続け、この世の天国のような「ハイC」を披露し続ける中で、瞬間にオペラ界の頂点へ上り詰めることに。

■次は、「オペラ歌手」から「スーパースター」に！■

音楽の世界は幅広いが、その中でもクラシック界は独特で、いかにも「自分たちは最高級！」と考えている感が強い。小さい時から英才教育を受けながらピアノやバイオリンのお稽古をし、音楽大学を卒業してきた彼らはまじめで優秀な音楽家だから、自分たちをそう考えるのはある意味当然だが、たまには、さだまさしのような例外も……。さらに、バイオリニストの葉加瀬太郎や高嶋ちさ子のような例外も……。

そんな風に思っている私は、パヴァロッチィが「オペラ業界では一番の嫌われ者」とも評されるハーバート・ブレスリンをマネージャーに起用したことに、ビックリ！また、それまでパヴァロッチィが経験したこともないリサイタルやコンサートや、アメリカ進出を狙ったハーバートに、パヴァロッチィがまったく反対せず、むしろ楽し気にその路線に乗ったことにもビックリ！さらに、1980年代には、ティボー・ルダスという興行主がパヴァロッチィの仕事を仕切り、世界中の都市のスタジアムで公演を打ち、西洋の歌劇団としてはじめて中国へも渡るが、それを嬉々として楽しんでいるパヴァロッチィの姿にもビックリだ。圧巻は、ホセ・カレーラス、プラシド・ドミンゴと競演した3大テノール

によるステージだ。

そんなこんなの大奮闘の中、パヴァロッティは今や、最高の「オペラ歌手」から世界の、そして世紀の「スーパースター」に！

■□■チャリティに熱中！ロック界と共演！こりゃすごい！■□■

圧巻の「三大テノール共演」が実現できたのはパヴァロッティのスーパースター性によるものだったが、そんなパヴァロッティも巨大な責任とプレッシャーの中で苦しみ、自分の次の進路に悩んでいた。しかし、とことん「性善説」の思考に立ち、接触する人をすべて幸せにしていく気さくで陽気な男パヴァロッティは、たまたま、あるチャリティーコンサートで知り合ったダイアナ妃と意気投合。彼女の影響を受けて、以降、慈善コンサート活動に生きがいを見出していくことに。

さらに、どの世界でも異業種交流が大切だが、孤高性を重んじるクラシック界ではそんな活動をするアーティストは少ない。しかし、1992年に故郷のモデナでロック歌手とのチャリティーコンサートである「パヴァロッティ&フレンズ」に参加したパヴァロッティは、いかにも楽しげだ。オペラ界からの激しいバッシングの中でも、ロック界との共演を続ける中で、新たに生まれたのがU2のボノとの友情だ。ボノとの共同の音楽活動をやりたい一心で、精力的に動き回るパヴァロッティの行動力は圧巻。その厚かましさは大阪のおばちゃん以上だが、その攻勢を受けるボノはなぜかそれが楽しそうだ。この映像を見ていると、「これぞ、ドキュメント映画の醍醐味！」と実感させられる。なるほど、この稀有な天才オペラ歌手が、歌の実力で、クラシックの枠にとどまらずスーパースターになったのは当然だが、その人間力でダイアナ妃やボノとの信頼と友情を築けたのは、何よりも彼の人並優れた人間力によるものだ！

■□■やっぱり欠点も！しかし、それでも・・・■□■

本作冒頭は、1995年のブラジル。そこで、ホームビデオを撮影し、「彼は思いつくまゝ行動するの」と解説しているのは妻のニコレッタ・マントヴァーニだが、後にわかるどころでは彼女は2番目の妻らしい。つまり、導入部のパヴァロッティの人生では、妻アドゥア・ベローニとの恋と3人の娘たちに恵まれたパヴァロッティの幸せな家庭生活が描かれていく。また、成人した娘たちの証言もたびたび登場し、オペラ歌手として大成功を収めたパヴァロッティの幸せぶりが、スクリーン上に充満している。もちろん、オペラ歌手として、更には世紀のスーパースターとして全世界を飛び回ってれば、家族との接点が少なくなるのは必然だが、パヴァロッティの場合は、そこから生まれる問題はなかったはず。また、イタリア人はおおむね女好きで浮気者だが、何よりも仕事が大好きなパヴァロッティに限っては、女問題、浮気問題もなかったはず。

そう思いながらスクリーンを見ていたが、本作ラストに向けては、23歳のニコレッタとの恋に落ちたパヴァロッティがアドゥアと離婚し、2003年にニコレッタと結婚に至るストーリーが展開していく。さらに、パヴァロッティとニコレッタの間には第1子が誕

生したというから、すごい。2番目の若き妻ニコレッタは、生まれたばかりの子供を中心とする家族の姿を片っ端からホームビデオに収めていたらしい。冒頭の1995年の映像もその1つだ。本作ラストに向けては、その秘蔵のプライベート映像が次々と公開されていく。

パヴァロッティの引退は2004年3月。最後のコンサートは2005年12月に台北で行われたもの。そして、2007年9月6日に膵臓がんのため72歳を目前に死去したが、さあ、そんな彼の人生の幸せ度は・・・？

2020（令和2）年9月11日記